

公民館報 こもろ

No.918

令和8年8月号

発行 / 小諸市公民館
編集 / 館報編集委員会
〒384-0801 長野県小諸市甲 1275-2
TEL 0267-23-8880 / FAX 0267-25-2224



北大井支館では、例年5月にソフトボール大会・10月にマレットゴルフ大会・2月に囲碁大会・2年に1度文化祭を開催していました。コロナ禍での活動休止以降は、特にソフトボール大会は人数が集まらず、参加チームが減少し、何年も開催できませんでした。今後開催が見込めない状態です。

支館としてもソフトボールに代わる何かをしようということですが、ポッチャ大会を開催しようと考えましたが、いきなり大会を開催できる知識も経験ありません。そこで、今年5月に公民館役員が、市教育委員会スポーツ課のポッチャ出前講座を受講しました。

来年度に向けてポッチャの基礎知識や大会の運営方法などを学んで、ゆくゆくは北大井地区15区の対抗戦のような形までもっていったらいいと考えています。



今支館・分館では「ポッチャ講習会」
— 北大井支館 —

出前講座では、講師となる小諸市スポーツ協会の指導員の皆さまのご指導により、ポッチャが初めての我々でも試合の進め方やルールを楽しく理解することができました。

来年度に大会実施するには、まだまだ課題も多いのですが、スポーツ課の皆さまの協力を得ながら地域をつなぐ公民館活動となるようにしていきたいです。

北大井支館長 竹内 正彦



「ごみ減量アドバイザーによる
ごみの分別と減量のポイント」
生活環境課

5月16日（土）八幡町区では市から委嘱されたごみ減量アドバイザーの佐藤さんを講師に迎え出前講座が開催され、地区の皆様15名ほどが参加しました。

本年度から小諸市では「燃やすごみ」でなく、「燃やさないごみ」に名称を変更し、ごみの減量化を図る方針を区民の皆様によりやすく、時にはユーモアを交えてお話をされていました。



令和7年8月に一ツ谷区で行なわれた盆踊り大会の様子



毎年、一ツ谷区では櫓を囲んで盆踊りをします。役員が作る焼きそばやフランクフルト、ポップコーンなどの屋台やスイカ割り、くじ引きなど、大人も子どもも楽しい時を過ごします。

◆内容

- p.25 「今支館・分館では」（北大井支館）
「見た！聞いた！出前講座」（八幡町区）
- p.26 「人ひと」（野岸小読み聞かせグループ「どんぐり」）
- p.27 「えんぴつリレー」（市川包雄さん）
- p.28 9・10月 公民館講座
【募集】小諸市民音楽祭参加団体 ほか
- p.29 「ぼくとわたしの作品」（千曲小学校）ほか



カラー版はこちら

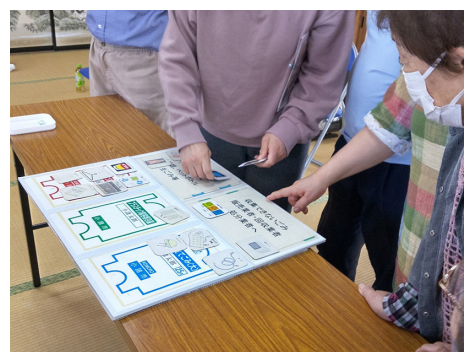
学校から60mの横断歩道に見守り隊として立つて2年目、朝の清々しい空気と、季節の花々に毎朝癒されています。

ピカピカの1年生は、満面の笑みの子、高学年の手を握りしめる子、親御さんと一緒に歩く子。昨年まで黄色いカバーのランドセルだった子が、4月からはそれぞれの色のランドセルを背負って登校してきます。「2年生になったね」と声をかけると、うなずいたり微笑んだり。

高学年の子が、ちょこちょこついてくる1年生を振り返ったり、時には手を引いたりする姿に、心の中がフワツとなります。雨の日は、傘が重なってドキドキするけれど、水たまりにわざと足を突っ込んだり傘を回したりする姿に、「これもまた冒険なんだなあ」と思います。

いつも通る子が見えないと「どうかしたのかな」と心配になり、元気な顔が見えるとホッとします。「毎朝大変だね」と言われるけれど、3人の子供が巣立った私にとって、何よりのご褒美タイムになっています。

編集委員 川崎めぐみ



実際に排出された燃やすごみを詳細に調べたところ、その40%ほどが資源化可能な、分別すればむしろ市の収入に貢献できるもの、との指摘に参加者は皆驚いた様子でした。

分別には一定の知識が必要ですが、五十音検索ができる分別ガイド（通称ごみサク）が用意されており、迷った時に調べやすい仕組みも整えられているとのことでした。



「ごみサク」↑

そして、最も重要なのは、分別を考える前にそもそもごみを増やさない工夫をすることだそうです。買い過ぎを避け、使い捨てを減らし、再利用できるものは繰り返し使うといった事です。

最後は2班に分かれ、廃棄物が書かれたカードをどの分類に分別するか頭を悩ませながら大いに盛り上がりしました。

初級・中級・上級のカードがあり、特に上級のはかなり難問でした。1時間は瞬く間に過ぎ、「大変だね」との声が聞こえる講座でした。

編集委員 中山正男



野岸小読み聞かせグループ
「どんぐり」

「どんぐり15年の歩み」

■保護者の思いから生まれた「どんぐり」

野岸小学校読み聞かせグループ「どんぐり」は平成24年（2012）から子どもたちに本の楽しさを届ける活動を始め、今年で15年目を迎えました。

きっかけは「野岸小に読み聞かせグループを作りたい」という保護者の熱い思いでした。当時のPTA会長の「子どものためになるなら大変なこともやる」との後押しを受け、2012年夏、全戸にメンバー募集のお便りを配布して、得意分野の異なる保護者が集まり



初会合を開催しました。

夜の図書館でお茶を飲みながら、読み聞かせだけでなく保護者同士の交流の場にもなりました。

初めての読み聞かせは緊張の連続でした。講習会などを通じて読み方や心構えを学びながら活動を軌道に乗せていきました。

■読み聞かせから広がる活動の輪

活動が進むにつれ、クリスマスイベントや「野岸子どもまつり」での寸劇出演など、読み聞かせ以外の取り組みも広がりました。

コロナ禍では活動が中止と再開を繰

り返しましたが、完全に途切れることなく続けてきました。感染状況を見ながら学年限定で実施、体育館での全校向けイベント、絵本をスライド化して見せるなど工夫を重ねました。

メンバーは在校生の保護者主体から地域の大人が中心に変わっていきました。「地域の大人の子どもを見守る」という思いのもと、「コミュニケーション」を通じて参加した地域の方もいます。

学年に応じて絵本・朗読・紙芝居を使い分け、季節や学校行事に合わせた選書も工夫しました。メンバーの得意分野、教室環境にも配慮しています。

読み聞かせの主役は「子ども」と「本」、メンバーはその間をつなぐ存在です。選書は子どもたちに何を届けるか「楽しみ」でもあり「苦しみ」でもあります。

■子どもたちの成長と学校との連携

1年間で全学年を回れるようにローテーションを組み活動。子どもたちとの触れ合いは活動の大きな喜びです。学年ごとに感じ方の違いはありますが、読み聞かせに慣れているので野岸小の子どもたちは15分間しっかり聞いてくれます。

読み終えた本は、図書館で何度でもじっくり楽しめるようにしています。外国の絵本を読んだ後、先生が世界地図を広げて学習につなげたこともあり、読み聞かせが学びや視野の広がりにつながっています。



令和7年度に小諸市表彰を受けた「どんぐり」の皆さん

編集委員 市川 強

■無理なく続けられた支え合いの心
「無理せず、できる人ができる時にできることをする」という姿勢を大切にしてきました。そして「活動を絶やさない」という使命感を共有しています。学校が読書の時間を大切にしていることも継続の力になっています。

■これからも子どもたちとともに

在校生の保護者に限らず、地域の大人が参加して子どもたちと触れ合い見守っていく場として広がってほしい。「メンバーに定年はありません。一生現役で子どもたちと関わってほしい」。本を通して子どもたちと関わる喜びを、一緒に味わっていただけたら嬉しいです。新しい仲間をいつでも歓迎しています。



No. 184

『長野県史』民俗編を調べてみると、佐久地域に限らず県内各地で、7月31日か8月1日に墓掃除をするという地域は多くあります。

8月1日は、「イシノト」とか「カマノフタのあく日」などと言われ、仏様が出てくる日として、盆月の重要な日と捉えられているということです。ただ明確に1日に墓参りをするとしているのは、佐久地域での調査のみです。

ところで、この風習は、寛保2年（1742）「戌の満水」の供養のためという説が一般に広がっています。

しかし、各市町村誌などを調べてみると、8月1日の墓参りの記述はあるものの、「戌の満水」との関係はほとんどで書かれていません。入手できた最も新しい『白田町誌』民俗編（2008年刊）にわずかあるくらいです。

それも「集中豪雨の被害にあった先祖の霊を慰めるために行うものだとする説を唱える人もいる」といった表現で断定はできています。

以前から「戌の満水」を起源とすることに疑問を持っていたので、実際はどうかといくつかの史料を調べてみました。結果として、江戸時代に8月1



「小諸公民館報」創刊号（1949年8月）の記事にも、「古来からの習はし」とあるのみで「戌の満水」のことは記されていない。

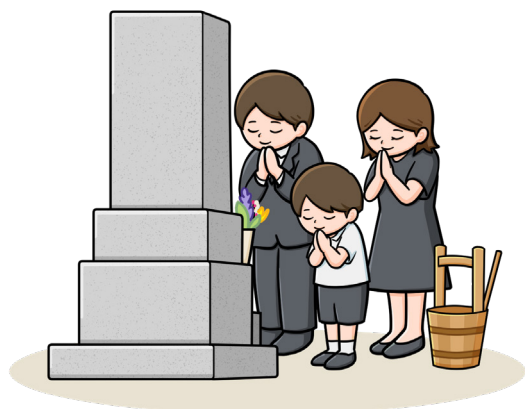
日の墓参りは確認できていません。

小諸本町の塩川家の日記には、8月1日は八朔の日で「節句御礼」として町役人らが登城して挨拶をする日であり、また荒町の八朔相撲の日だと記されています。

片倉村や桑山村（いずれも佐久市）の記録でも、8月1日は遊び日（休日）としていますが、墓参りの記述はありません。

一方で7月に墓参りを行ったとの史料はあります。盆行事は現在、月遅れの8月に行っていますが、もともとは旧暦7月です。

片倉村の史料には、六月晦日に墓掃除をし、7月3日に墓参りをしたことが書かれています。また下中込村（佐



久市）の寛政6年（1794）の日記にも7月3日の墓参りの記録があります。さらに、与良町には、7月1日の墓掃除、その後の墓参りの記録があります。太陽暦になったことで、墓掃除・墓参りを8月に変更したことも日記からわかります。

災害を後世に伝えていくうえで、墓参りをし、8月1日（但し寛保2年は太陽暦換算では8月30日）に、大きな水害があったことを語り継いでいくことの意義は大きいとは思いますが、史実と伝承との関係は慎重に考えていきたいと思います。



「うんどう会のソーラン」

4 月おわりぐらいから、ソーランのれんしゅうをはじめました。はじめは、ちょっとむずかしかったです。でも、どんどん分かってきて、できるようになってきました。

れんしゅうのとき、ずっと晴れていて、足がいたくて、あつくて、たいへんでした。でも、私は、こう思いました。いたくない、あつくない、と思いました。そうしたら、ほんとうに足がいたくなくなり、あつくなくなりました。はだしは、いたいけど、みんなとおどるのは楽しいです。

4 年生になってもソーランをおどるんだったら、おどるれんしゅうをつづけていきたいです。だからって、きゅうけいはとります。いつかまた、思い出せるように、がんばって思い出にのこそうと思います。

でも、みなさんもソーラン節をおどってみたら、あながいたのしいかもしれません。だから、みんなでおどってみましょう。そうしたら元気になるかもしれません。つらいことがあっても、元気になるれます。私は、元気をわすれないようにがんばります。本番のソーランはみんなで力を合わせて元気いっぱいでした。みなさんも、元気をだいにしましょう。



「赤白がんばった、うんどう会」

これから、私は、うんどう会の話をして。

うんどう会は、赤組白組が、いろんなきょうぎをして、きそい合います。

たとえば、きばせん、つなひき、などなど、いろんなきょうぎがあって、それいがいいでも、れんがくねんでやるパフォーマンスもあり、いろいろもりだくさんののが、うんどう会です。

私も、やりましたが、パフォーマンスもとってもすごくて、みごたえがあり、きょうぎもはくねつして、たのしかったです。

うんどう会は、赤組は、白組がいたから、白組は、赤組がいたから、たたかうことができるから、赤組、白組、「ありがとう」このおもいをわすれずに、うんどう会をたたかえて、たのしく、おもしろくできるから、ほんとうにうれしかったです。

この学校は、あと 1 年でおわってしまいます。

あと、年間いろいろなことがあります。

音楽会や、いろいろなことがあるとき、私はがんばります。



3年1組

井出 明花

3年1組

横田 陽南

8/1 (土) 施設予約開始

※ 予約はオンラインのみ。事前利用者登録が必要です。



施設名	利用月	施設名	利用月
公 民 館	令和 8 年 10 月	文 化 会 館	令和 9 年 8 月

9・10 月公民館講座

☎ 小諸市文化センター

☎ 0267-23-8880

申込みは、窓口、電話 (9:00 ~ 17:00) または、ながの電子申請 (小諸市 H P)。



申込みはコチラ

竹花摩耶ソプラノコンサート

～愛をこめて～

出演：竹花摩耶さん・ピアノ：岡村まり子さん

◇日 時 8/29 (土) 14:00 ~

◇会 場 小諸市市民交流センター
ステラホール

◇費 用 1,000 円

※申込不要。直接会場にお越し下さい。

主催：小諸市民大学／共催：女性学級



着物リメイク講座【全3回】

和服から作り直せるベストを作りましょう

講 師：大池佳子さん

◇日 時 9/30、10/14、28 (水) 13:30 ~ 16:00

◇場 所 陶芸木工室

◇費 用 300 円程度 ◇定 員 10 名

◇持ち物 リメイクする着物、裁縫道具

◆申 込 8/25 (水) ~ 9/8 (水)



シニアのためのスマホ教室

スマートフォンを使いこなそう

講 師：こもろ情報ひろば 佐藤 重さん ほか

◇日 時 9/2 (水) 10:00 ~ 11:30

◇場 所 第一講義室

◇定 員 20 名

◇持ち物 スマートフォン、筆記用具

◇費 用 無料

◆申 込 7/28 (水) ~ 8/11 (水)



エッセイに挑戦【全3回】

エッセイの書き方のコツを伝授します

講 師：小諸市社会教育指導員 小林幹知さん

◇日 時 10/1、29、11/19 (水) 10:00 ~ 11:30

◇場 所 会議室

◇費 用 無料 ◇定 員 10 名

◇持ち物 筆記用具・ノートまたはパソコン

◆申 込 8/18 (水) ~ 9/1 (水)



第 39 回 小諸市民音楽祭

小諸市文化会館自主事業

開催日 令和 8 年 11 月 21 日 (土) 開 演 14:00 (予定) **参加団体募集**

会 場 小諸市文化会館ホール

■参加条件 小諸市に活動拠点がある 5 人以上の団体

※ 1 団体あたりおおむね 10 分以内 (準備、片付け含む)。

反響板を使用するため発表方法に一部制限あり。

■参 加 料 無料

■申込締切 8/28 (金)

申込・問合先 小諸市文化センター ☎ 0267-23-8880



第 39 回小諸市短詩型文学祭 作品募集

●投稿規定

①投稿作品：短歌部門 2 首 / 俳句部門 3 句 / 川柳部門 3 句

②投稿資格：小諸市及び東信地区に在住する方、事業所に勤務する方、活動する各団体、通学する小中高生

③応募用紙：所定の応募用紙 (コピーでも可) を使用し、住所・氏名・電話番号を記入する。(雅号の場合も本名を書く) 楷書で書き、必要箇所にはふりがなをつける。(用紙は文化センター・文化協会所属結社にあります)

④投 稿 料：一部門一組につき 1,000 円 (各部門とも一人一組) ※小中高生及び介護施設からの投稿は無料

★投稿者には作品集を配付します。

●投稿方法

①締切日：9/11 (金) 消印有効 ②投稿料：作品と一緒に事務局に提出、または郵便小為替を郵送

●表彰式及び分科会

・日時 12/12 (土) 13:00 ~ 16:00 ・会場 小諸市文化センター

投稿先及び問合先 小諸市文化協会事務局 (小諸市文化センター内)

〒 384-0801 長野県小諸市甲 1275 番地 2 ☎ 0267-23-8880